



通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌

University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine

vol. **40**

2017 Autumn

CONTENTS

- 02 特集1
- 08 特集2
- 14 福教大NEWS
- 17 サークル紹介 
なぎなた部
海の療育キャンプ
- 18 社会連携 連載第18回
- 20 福教大卒OB・OG紹介
志免町立志免東小学校主幹教諭
藤木 悠介さん
春日市立春日原小学校教諭
藤原 有花さん
- 22 TOPICS
WEB絵本「出光佐三のふるさと
～むなかたから世界へ～」が公開されました。
表紙モデルの福教大生☆
福岡教育大学基金のご案内
- 23 キャンパスからの便り

特集1

福岡教育大学の魅力

特集2

福教大の教員紹介



国立大学法人

福岡教育大学



櫻井 孝俊
福岡教育大学長

学長

学生

細山田 捺見さん
特別支援教育教員養成課程
知的障害児教育専攻4年

田口 由希子さん
初等教育教員養成課程2年

特集 > 1 Feature 1 魅力

福岡教育大学の

2020年度の新学習指導要領の導入に伴い小学校、中学校、高校の教育現場で求められる教員像は大きく変化していきます。新学習指導要領では小学校でプログラミング教育が必修化されるなど、変化する社会や時代に合わせて、教員養成の方法にも転換が求められます。福岡教育大学は2016年度から、これからの教育現場に求められる教員像を意識した新しいプログラムを始めています。クラス担任制の導入や英語教育の強化、ボランティア活動に取り組みやすい環境の整備など、学生の成長を後押しするプログラムの特徴について、櫻井孝俊学長と学生2人が意見を交わしました。

理想の教員像を目指して

櫻井 2人が入学したきっかけを教えてください。

細山田 高校生の時に特別支援学校の生徒と交流する機会があり、教員の丁寧な指導を見て、特別支援教育に携わりたいと思うようになりました。地元である鹿児島県での進学も検討しましたが、福教大は九州で唯一の教員養成単科大学として教員養成に特化していることや、ボランティア活動にも積極的な点が魅力でした。専攻する障害領域の特別支援学校教諭免許状に加え、さらに四つの障害領域の免許状が取得できることも進学を決め手になりました。

田口 小学3年生で転校したのですが、クラスになじむのに苦労しました。そんなときに先生が優しく導いてくれたのがきっかけで、教員を目指すようになりました。福教大は、高校の先輩の評判が良く、オープンキャンパスで勉強に集中できる雰囲気にも触れることができ、入学を決めました。実家から通える点も大きかったですね。

櫻井 2人とも教育現場でのいい出会いに恵まれたことが教員を目指すきっかけになったのですね。本学は、教員養成に特化していることが最大の特徴です。2016年以降、改革を進め、学級運営の視点に立った「カリキュラムマネジメント」や「リスクマネジメント」といった講義も行っていきます。全学共通で、4年間一貫したきめ細かな教育をする体制として、教職教育院や英語習得院などを新設し、採用試験のサポートや英語の指導強化にも力を入れています。また、福岡県教育委員会や福岡県教育センターの関係者、さらには福岡県の小学校や中学校長会会長らが集まって、研究協議を進めた教員指標のモデル策定や国際協力機構(JICA)との連携協定など、社会的意義のある活動も精力的に手掛けています。

細山田 教員養成指標のモデルは



櫻井学長

本学が策定したのです。これから目指す教員像でもあり、とても興味深いです。しっかりと自分を磨き、理想の教員像に少しでも近づいていきたいです。

田口 JICAとの連携では2018年から3年間、毎年、福教大の学生をタンザニアに派遣すると聞きました。政府が推進するスポーツ貢献事業に関わるとのことなので、グローバル人材として世界を舞台に活躍できる教育者を目指すなら大きなチャンス。貴重な経験になりそうですね。

講義の内容をすぐ試せる

櫻井 入学後、大学の印象は如何ですか。

田口 学級づくりに関する講義では、現役の教員の方々にゲストティーチャーとして招き、学校現場の実情や課題を聞く機会がありました。例えば授業中に子どもたちの興味を引く話し方や、ちゃんと見てもらえる掲示物の作り方など、実践的な指導方法を学びました。現役の教員の生の声を聞く機会は貴重なもので、こうした授業があることはとてもありがたいと思います。福教大は1年次から教育実習に行く機会があるので、教わったことを実践の場でやってみて実感できることも数多くありました。

細山田 理論だけに終わらず、現場の生の声が聞ける授業



教職教育院におけるクラスの様子

が多いのは、教員養成に特化した本学ならではの魅力です。1年次から教育実習に行き、講義で習ったことをすぐに実践の場で試せるので、より一層理解が深まります。理解したことが実践の場で身に付くと忘れにくいし、何より「教員になりたい」とモチベーションも高まります。

櫻井 早い段階から実習を経験し、行くたびに自らの成長を実感しているようですね。教育は生徒を相手にするので、実際に教壇に立ってみないと分からない部分もたくさんあると思います。教職教育院という本学独自の指導体制では、少人数のクラス制にして担任を置いています。実習だけでなく生活面も含め、ささいなことも気軽に相談しやすくなったのではないのでしょうか。

田口 大学では初めて経験することが多いので、悩んだときに相談できる体制が整っているのはとても心強いです。1年次には新入生数人ずつが学長室で、直接学長と話す機会もありました。

細山田 学生時代は仲のいい友人とばかりコミュニケーションを取ってしまいがちです。でもそのような偏った交友関係では学べないことも多いのではないのでしょうか。福教大では、先生と話す機会も多い。年齢や立場が違うからこそ、先生方からの助言は新しい視点を与えてくれます。人としても教員としても大先輩ですから、幅広い分野の相談をお願いします。



細山田 探見さん

櫻井 学長になると教室で皆さんと触れ合う機会は減ってきます。それでも新しい体制になってまだ間もないので、できるだけ学生の皆さんの困っていることや要望を聞きながら柔軟に改善していきたいと考えています。気付いた点や意見があれば、遠慮なく教えてください。

実践的な英語教育の実施

櫻井 英語の基礎的運用能力の習得や留学に必要な英語力の向上を目指す全学共通の講座を「英語習得院」で開講しています。

細山田 「英語習得院」では受験英語ではなく、実践的な力を鍛えられそうですね。

田口 小学5、6年生で週1回「外国語活動」の授業がありますが、2020年度から正式に教科になりますね。

櫻井 そうです。日本の教員でも、グローバルな視点は欠かせないものになります。本学は、オーストラリアのキャンベラ大学や米国の北アリゾナ大学など英語圏の大学との協定推進を図り、海外研修をサポートしています。小学校の教員採用試験に向けた英会話実技対策特別講座も無料で実施しています。

細山田 教員を目指す道のりもそうですが、語学学習も同じ志を持った仲間と取り組めると、より頑張れそうですね。

田口 海外研修やインターンシップも大学のプログラム



田口 由希子さん



附属小倉小学校での教育実習の様子

であれば、安心して参加できそうです。

1年次から始まる教育実習

櫻井 教育実習の感想はですか。

細山田 1年次から参加できるのは、とても重要です。1年次にはできなかったことや反省した内容に、2~3年次と繰り返し挑戦できます。そこで成長を感じられれば、達成感を糧に苦手分野を克服して自信を持って前に進むことができます。

櫻井 1年次は体験実習として、大学の地元である宗像地区の小学校で学校行事や日常の学級運営に参加します。ここでは授業の進め方というよりは、実際に子どもに寄り添いながら先生の補助をすることで、教育者の視点を学びます。2年次は観察参加として、3年次が行う本実習を観察します。次年度に向けての心構えを養い、気持ちが引き締まる学生が多いようです。その後行われる基礎実習では小学校などを訪れ、授業や保育に参加。そこで見た授業を分析・考察し、自分だったらどう改善するか考えて、模擬授業まで行います。

3年次になるといよいよ本実習が待っています。実際に教壇に立ち、指導力の基礎を培っていきます。約1カ月と長期間にわたるので、しっかりとした準備と現場での臨機応変さが求められます。そして、最終年次にはこれまでの集大成となる教育総合インターンシップ実習が待っています。これまで学習した成果を統合して、教師としての資質や力量をレベルアップすることを目的としています。

田口 どれも内容や意味が違った段階的なプログラムになっているのですね。1年次の体験実習で3日間ではありましたが、今の教育現場の事情を間近で見ることができ、自分の中の「教員になりたい」という熱い思いを再認識できました。

細山田 特別支援学校には、いろんな子どもたちがいるので、かなり広い知識が必要だということを改めて実感しました。子どもたちから目を離せないという緊張感や責任感も実際に体験できました。2年次には先輩の授業を見学しましたが、子どもたちが飽きないようにさまざまな工夫があり、勉強になりました。そこで学んだことを翌年の自分の本実習で実践

4年間を通した福岡教育大学の教育実習

	実習名	目的	実習校
1年生	体験実習	児童生徒とのふれあい 教師の仕事の理解	協力学校・園
2年生	基礎実習	授業を構想する力 本実習の基礎づくり	附属学校・園
3年生	本実習	教育実践力	附属学校・園、協力学校
4年生	教育総合インターンシップ実習	教育実践力の向上	協力学校



英語習得院での講座の様子

しました。先輩にどれだけ近づけたかはわかりませんが、「優秀教育実習生賞」を頂き自信になりました。

櫻井 教育現場ではすぐに離職してしまう若手の教員が多いという問題を抱えています。学生時代にできるだけ長い時間現場を見て、いろいろなケースを経験していれば、理想と現実のギャップに悩んだり、イメージと違ったという理由で辞めていったりするケースは減らせるのではないのでしょうか。教員という仕事は、全く同じ日はなく、常に応用力を試される仕事です。楽ではありませんが、その分やりがいは大きい。良い部分も大変なところもじっくり学生時代に見ておくといでしょう。

ボランティア活動で自己成長

櫻井 2人は、ボランティア活動にも積極的そうですね。

細山田 1年次に「ボランティア実践入門」という講義を履修し、さまざまなボランティア活動があることを知りました。東日本大震災で被害の大きかった東北のボランティア活動に参加し、現地の子どもたちと触れ合えたことは思い出になっています。また、その後も時間を見つけては特別支援学校のボランティア活動に参加し、障害のある児童や保護者の方と接する機会を持っています。

田口 多くの子どもたちと関わりたくて、小学校訪問やキャンプのお手伝いなど、いろいろなボランティア活動に飛び込んでいます。本学にはボランティアコーディネーターがいて、自分に合うボランティア活動選びもサポートしてもらえるので、初めてでも安心です。

櫻井 教育者になるためには全人的な学びも大切です。教室の中での学びに加え、ボランティア活動や実習で身に付くことも多々あると思っています。本学では、ボランティア活動に対しても独自の認定制度を設けています。例えば、

福岡教育大学4年間を通した学生ボランティア活動の取組

活動内容	学年	1年	2年	3年	4年
フレッシュマンセミナー (前期実施)		(4月～7月初)			
ステップアップセミナー (後期実施)			(10月初～3月末)		
短期集中型ボランティア活動 (夏季休業中)			(8月初～10月初)		
短期集中型ボランティア活動 (春季休業中)			(2月初～3月初)		
教育実習前後のボランティア活動(2年後期～4年前期)				(6月初～3月末)	
教壇に立つためのボランティア活動 (春季休業中)					(2月初～3月初)
学生ボランティア活動 (通常)			(1年間を通して)		

自己評価を基に認定基準を達成した人で100日経験をした場合は「サポーター」、200日以上が「チーム」、300日以上は「リーダー」という資格を認定し授与します。

数だけで測れない学びもありますが、ボランティア活動は毎日違う人や経験と出合える貴重な機会です。参加した日数と学びの深さはある程度比例するところもあるでしょう。対象者との関わりやチームワークを通して、人とのコミュニケーション能力を磨くことができます。自分の専門とは違う種類の

ボランティア活動に挑戦するのも、違った意見や視点を知りたい機会になります。

教員を目指す皆さんにとって学生時代は見識を広げ、豊かさを身に付けられる時間です。一瞬たりとも無駄にすることなく、自分だけの彩り豊かな物語を紡いでほしい。本学が取り組んできた改革は、このような学生の成長を応援するためのものです。夢をかなえるために頑張る学生の皆さんを全力でバックアップします。教職教育院も英語習得院もボランティア活動へのサポートも、全てはそこにつながっているのです。教員採用試験の合格率90%以上を目指して、教職員一同力を合わせていきますので、学生の皆さん、大学が用意するチャンスをどんどん活用して、夢に向かってがむしゃらに突き進んでください。

細山田 福教大だからその学びや、友人との出会いはかけがえのない宝物だと感じています。卒業後も教員になった仲間と継続的な交流を続け、お互いに情報交換しながら切磋琢磨(せつさたくま)を続けていきたいと思っています。

田口 卒業後も福教大での学びを生かしてレベルアップしていきたいです。いつか教え子が「先生になりたい」と思ってくれるようなお手本になれるよう頑張ります。

櫻井 2人ならきっと大丈夫です。卒業まで、そして卒業後も、福教大で学んだことを誇りに思いながら自分を磨いていってください。



小学校での学習指導支援の様子



女川中学校教育活動支援の様子(震災「東北」ボランティア活動)

福岡教育大学での教職を目指した 学びの主な特色

1. 全国各地域からの教職を目指す仲間との切磋琢磨、交流ができます。

本学は、福岡県以外にも全国の様々な地域の出身者が入学しており、在学中、多様な学校教育経験や考え方を持つ学生と親交を深めるとともに、教員として就職した後も継続的な交流を図ることにより、各地域の学校教育の取組や情報等を交わすことが期待されます。

2. 今後の学校教育や各学校種の教員として必要な知識技能を学ぶ授業科目を開講します。

学級担任制により基本的に全教科等を指導する小学校、教科担任制の中学校・高等学校、各障害領域に分かれる特別支援学校と、各学校種の違いにより教員に求められる資質能力が異なります。初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程では、各学校種の教員に求められる資質能力の違いを踏まえて必要となる力を確実に修得する教育課程を編成しています。

3. 本学独自の指導体制として教職教育院を設けています。

4年間を通しての学級担任制度（クラス）を導入しています。これにより初等教育教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程初等教育部の学生は、1年次から1学級数名～30名程度で編成される学級に所属し、各学級を担当する大学教員や学校経験豊富な特命教授等が系統的な教職指導を行います。

4. 4年間を通しての学校現場体験、実習により実践力を育みます。

教員には、高度な知識技能だけでなく、それらを活かして実践的に指導できることが必要です。必修科目である体験実習（1年次）、基礎実習（2年次）、教育実習（3年次）、教育総合インターンシップ実習（4年次選択科目）と、4年間を通しての附属学校や公立学校での体験、実習により、体系的に教職の役割や業務の理解を図り、実践的な指導力を育成します。

5. 授業科目では身に付きにくい教員として必要な力を課外活動で育みます。

教員として必要な総合的な力は授業科目だけではなかなか修得できません。本学独自の取組である英語習得院による英会話力の向上、学校支援ボランティア活動等、課外活動でも様々な学習の機会を提供しています。

6. 各地域の教員採用選考試験に向けた対策を行います。

各都道府県・市教育委員会の教員採用状況や教員採用選考試験はそれぞれ特色があります。キャリア支援センターを中心として各自自治体に沿った情報収集、対策に取り組むことができます。

7. 教職大学院でさらに高度な実践力を身に付けられます。

学校現場に求められる力は高度化・多様化しています。本学は、福岡県所在の大学で唯一、教職大学院を設けており、4年間の教育学部での学修のうえに教員としての資質能力をさらに高めるために、本学教職大学院で学び続けることができます。

家政教育講座
奥谷 めぐみ



音楽教育講座
山中 和佳子



特集
2

福教大の 教員紹介

現在、福岡教育大学には約170名の大学教員が在籍していますが、今回は、魅力ある本学の教員の中から未来を担う5名の教員にスポットをあて、日頃皆さんが興味を持たれている「研究テーマ」や「大学教員の道に進まれたきっかけ」などについてインタビューしました。



数学教育講座
岩田 耕司



美術教育講座
加藤 隆之



保健体育講座
樋口 善之



数学教育講座
准教授 岩田 耕司

出身地/広島県
最終学歴/広島大学大学院博士課程後期単位取得退学
取得学位/修士(教育学)
本学着任/2010年

そのときの恩師の先生(指導教員の先生)や大学院の先輩方の影響が強いです。大学院で学んだ後に一度、現場に出て中学校と高校の数学の教員(勤務校が中高一貫校でした)をしていたのですが、やっぱり先生は楽しくて、その当時はそのまま中高の数学の教員を続ける気満々でした。そんなある日、恩師の先生から電話があり、大学教員の募集があるから応募してみないか言われ、断るにも断れず、どうせ受からないからという先生の言葉を信じて応募書類を送ったのが運命の変わり目だったのだと思います。

3. 研究成果の教育への還元について

私の研究領域は、元々、算数科や数学科の授業を主な研究対象とするものですので、研究成果はもちろんですが、日々の研究のプロセスそのものも学生指導に(特に卒業研究や修士論文指導などで)生かしているように思います。自分の失敗した経験や苦労した経験に基づくアドバイスは、結構説得力があるのではないかと個人的には思っています。

4. こだわりの物・考え・モットーについて

私の考え・モットーは、「自分でできることは自分でする」です。教育の本質は「自律性を育てること」であることにも通じると思っています。自分自身、できることがどんどん増えるといいなと思っていますので、DIYでいろいろなものを作るのが好きですし、壊れたものを分解して修理することも好きです。最近では、自転車の車輪をスポークから組み直して修理したのですが、その過程でいろいろな発見があり楽しかったです(一番の発見は、スポークの長さを決めるのに数学Iで学ぶ余弦定理が使われていることでした)。

5. 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

何よりも、自分で考える力、自分で考えようとする態度を身に付けて欲しいなと思います(教員になろうとしている人には特に)。何でも人に聞いたり、考えることを簡単に諦めてしまったりする人が、子どもたちに考えることの楽しさや大切さを伝えられるとは思いませんので。子どもたちと一緒に考えることを楽しめる教員になって欲しいなと思います。

学生から見た先生の魅力について

岩田先生は、優しくアットホームな先生です。また、いつも率直に的確なご意見を頂け、頼れる先生なので、先生のルームはとても人気があり、卒業生もよく訪ねてこられます。さらに、ご家族を大事にされており、学生をスキーに連れて行ってくれるフレンドリーな先生でもあります。岩田先生、修士論文頑張りますので、これから

くまみさき
熊美咲さん
大学院教育学研究科教育科学専攻
教科教育創造コース数学教育領域2年



考えることを楽しめる教員に

1. 専門の研究テーマについて

専門は、算数・数学教育学です。算数科や数学科の授業を主な研究対象とする学問領域ですが、その中でも特に、数学的思考や数学的問題解決の過程に興味をもって研究に取り組んできました。最近では、関数の指導に焦点を当てて、小学校から中学校の関数の系統的な指導の在り方について研究しています。学習の系統を考える際には大きく、教科内容の系統と認知発達の系統とを考える必要がありますが、関数領域では特に後者の系統が不明確だと思っています。具体的には、関数指導の場合、比例、反比例、一次関数、関数 $y=ax^2$ といった、関数の種類による学習の系統(教科内容の系統)ははっきりとしています。一方で、それらの学習の中でどのような思考ができるようになるのか、深まっていくのかといった、認知発達の系統ははっきりしていません。最近はこのようなことをテーマに研究に取り組んでいます。



授業(教職実践演習)の様子

2. 大学教員に進むことになったきっかけについて

元々は高校の数学の先生になりたいと思っていました。ただ、大学で勉強すればするほど自分の知識の無さを痛感するようになり、このまま先生になって良いのだろうかと悩んで大学院に進みました。結果として大学教員になったのは、



出前授業(附属福岡中学校)の様子



DIYで作成途中の庭の水栓の水受け



ルーム所属学部生・院生



家政教育講座
准教授 奥谷 めぐみ

出身地／兵庫県
最終学歴／東京学芸大学大学院博士課程
取得学位／博士(教育学)
本学着任／2013年

身近な生活課題を科学的に探究する面白さを伝えたい 何事もやってみることが生活課題を見つける第一歩

1. 専門の研究テーマについて

私の専門テーマは「消費者教育」です。人は生まれた瞬間からお金を支払って手に入れる商品・サービスを使って生活します。情報を収集分析する批判的思考力、商品・サービスを選ぶ意思決定力、収支をコントロールする生活設計力等、消費者として社会を生き抜く力を養うための教育が必要です。現在では、若者が商品・サービス、消費文化から受ける影響を調査し、学校教育で活用できる教材の開発等について研究しています。さらに、エシカル消費をキーワードに、持続可能な消費の在り方についても調査しています。



国際家政学会での研究発表の様子

2. 大学教員に進むことになったきっかけについて

家政学との出会いは大学3年生です。化学が大好きで理科の教員を目指し大学に進んだ私です

が、希望の研究室に入ることができず、家政系の研究室に入りました。大学を辞めようか悩んだ時期もありましたが、家政学で探究する「自分はどう生きたいか」という生活の根源となる問いの魅力に気付きました。この問いは時代や、生活環境の変化、文化の違いで変化し続けます。無限に探究し続けられる可能性に、学部だけの学びでは物足りず、修士、博士課程と進むことを決意しました。



附属小倉中学校での授業実践の様子

3. 研究成果の教育への還元について

若者に身近な「ソーシャルゲーム」について、サービスの仕組みやトラブルの原因について考える動画教材を開発しました。動画を用いて小学生・中学生を対象に指導をすることもあります。大人が作った消費の仕組みに巻き込まれるのは子どもです。消費との適切な付き合い方を教えることは、親や教師をはじめとする大人の役割であると考え、研究に携わっています。大学の講義でも子ども達の身近な課題に気付ける先生になってほしいという思いから、研究成果から見えた子どもの生活実態を取り上げるよう心掛けています。

4. こだわりの物・考え・モットーについて

好奇心が強く、まずはやってみることがモットーです。最近は料理にはまっています、レパートリーを増やそうと休日は夫と一緒に料理をしています。美味しいご飯は楽しいコミュニケーションのきっかけです。

5. 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

子どもを理解するために、背景にある「生活」を想像する力を身に付けて欲しいと思います。まずは自分の生活に関心を払ってみましょう。生活を楽しくする人や事柄、もの、環境に目を向けてみてください。様々な価値観を知り、受け止められるように、広い視野で日々を過ごしてください。



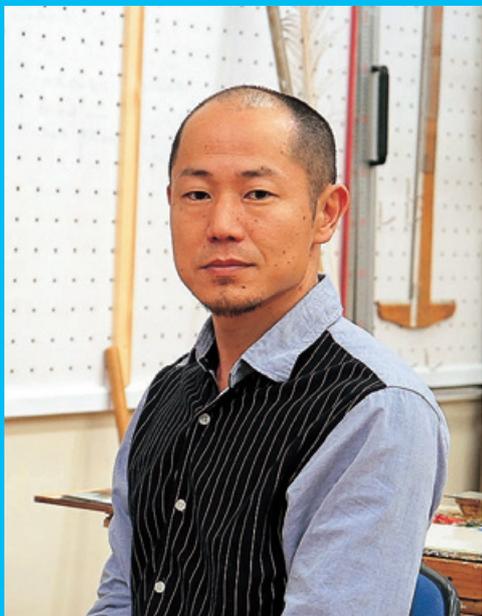
学生から見た先生の魅力について

奥谷先生は、学生の誰よりも明るく、ユーモアがあり、とても熱心な先生です。また、恋愛や部活動についても親身に相談にのってください、先輩のような存在でもあります。私たちは、奥谷先生のような教師になることが目標です！

ルーム所属学生



好奇心とチャレンジ精神を 忘れずに



美術教育講座
准教授 加藤 隆之

出身地／兵庫県
最終学歴／筑波大学博士課程
取得学位／博士(芸術学)
本学着任／2009年

1. 専門の研究テーマについて

研究は、油彩画制作、そして絵画組成を活かした教材研究について取り組んでいます。近年の制作では、「日常と非日常の境界」をテーマに現実空間と創造の事物を組み合わせたダブルイメージの表現をおこなっています。教材研究では、絵画組成という描画の素材や作り方に関する研究を活かして、描いてみたくなるような描画材づくり(クレヨンや水彩絵具など)の教材研究を実践しています。



「虚実」/2016年/F3号二点組/油彩・テンペラ合板



手作りしたマーブル模様のクレヨン

2. 大学教員に進むことになったきっかけについて

制作活動を続けていきたいという思いが大学入学時からありました。その思いをあきらめることなく現在まで続いています。表現については、描けば描くほど、知れば知るほどたどり着けない深い世界が広がっていくように感じています。

3. 研究成果の教育への還元について

表現について、技術的な手立ては教えることができても何を描くかは本人次第になります。それでも発想の手法や制作の継続方法は、私自身の制作を通じた経験談を伝えることができます。制作による完成作品よりも、経験値を研究成果として伝えることができればと願っています。学生には、技術だけを教える教員ではなく、想いと熱意を伝えられる教員になって欲しいです。

4. こだわりの物・考え・モットーについて

こだわりの物は、WINSOR&NEWTONのSeries7 MINIATUREという筆です。コリンスキー毛を使用した、ミニチュア(細密画)向けの毛先の短い面相筆です。テンペラ絵具を使った細かな描写では、実力以上の表現を引き出してくれます。



5. 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

実際に体験した経験値がその人を大きくします。そして強い好奇心と高い行動力が教員には必要だと考えています。いつも好奇心を持って色々なことに挑戦して、人間性を磨いていきましょう。

学生から見た先生の魅力について

加藤先生は、外見のイメージどおり穏やかで優しい先生です。一方、作品制作の際などの確に助言いただいたり、進路の相談に乗っていただいたりといった、とても学生の面倒見のよい一面や、トライアスロン・水泳などスポーツをされているアクティブな一面もあります。加藤先生、私達に寄り添ったアドバイスをいつもありがとうございます。



「K」のポーズで♪(加藤先生のイニシヤルから)

おおやま ゆかり
大山 由加里さん
初等教育教員養成課程
美術選修4年

わだ あかは
和田 紅葉さん
中等教育教員養成課程
美術専攻4年

くさば ともみ
草場 智美さん
中等教育教員養成課程
美術専攻4年



保健体育講座

准教授 樋口 善之

出身地/愛媛県
最終学歴/産業医科大学医学研究科
単位取得満期退学
取得学位/博士(医学)
本学着任/2013年

自分の頭で考え、自分の言葉で話すことのできる教育者に

1. 専門の研究テーマについて

主たるテーマとしては、エイジマネジメントに関する研究活動を行っています。エイジマネジメントとは、年齢に関連する要因について、毎日の作業管理、作業計画及び労働組織等の各面において考慮することにより、年齢にかかわらず、だれもが個人の目標と組織的課題を、健康的かつ安全に達成できるようにする取り組みを指し、産業保健や人間工学領域で取り扱われることの多い研究テーマです。私はこのテーマについて、これまで個別に研究されることが多かった公衆衛生学の各論領域(母子保健—学校保健—産業保健—地域保健)を跨いだより大きなフレームでの理論展開と実証研究を目指しています。

2. 大学教員に進むことになったきっかけについて

私の研究領域は裾野が広いので、自分の専門分野だけでなく、関連領域の書籍も読む必要があります。本をたくさん読み、“知ることの喜び”が好きだったことが大学教員に進んだ要因かと思います。学部時代の指導教官から「大学教員になれば、本をたくさん読めるよ」と言われたことを今でも覚えています。

3. 研究成果の教育への還元について

私が取り組んでいる研究は、社会医学領域が主になりますが、そこで議論されているのは、いわゆる健康の社会的決定要因の重要性です。健康課題は、感染症の時代から生活習慣病へ、近年ではメンタルヘルスや自己免疫疾患への対応も叫ばれるようになりました。現代社会における健康の保持増進のためには、個人の努力はもとより、社会制度の在り方や所属するコミュニティの状況などが強く関連し、従来、考えられてきたよりも社会的な要因の影響が強いことが明らかになってきました。狭義の健康教育だけでなく、教育や学校の在り方が、その後の健康やQOLに関連していることを、エビデンスをもって学生に伝えていきたいと考えています。

4. こだわりのもの・考え・モットーについて

学生さんたちと可能な限り楽しい時間を過ごしたいと考え、年数回BBQを計画しています。頻繁にできれば理想ですが、なかなかそうはいきませんので、ルームの新歓やセメスターの区切りなどのタイミングを狙っています。桜の季節や夏の夕暮れなど、その季節柄を感じながら、みんなでBBQをするのが私のこだわりです。

5. 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

自分の頭で考えて、自分の言葉で話すことのできる教育者を目指してください。

学生から見た先生(ルーム)の魅力について

樋口ルームは週に1回集まってゼミを行なっています。自分の興味があること、好きなことなど様々なことについて調べ、それをルームのみんなと共有しています。なんといっても我が樋口ルームは定期的にある課外ルーム活動のBBQが魅力です。先生が大好きなBBQに3、4年生全員が参加し、和気藹々としています。先生と学生の仲もよく、なんでも話せる、明るく楽しいルームです。

まきのだ ゆめ
牧野田 悠芽さん

初等教育教員養成課程 保健体育選修4年



BBQの様子



音楽教育講座
准教授 山中 和佳子

出身地/岡山県
最終学歴/東京藝術大学博士課程
取得学位/博士(学術)
本学着任/2012年

感覚を研ぎ澄ませ 五感を働かせる経験を通して

1. 専門の研究テーマについて

修士課程器楽専攻でフルートを学んだ後、音楽教育学を学ぶために同大学の修士課程と博士課程に進みました。音楽教育学に進んだ背景には、人間(自分を含めて)が楽器を演奏する意味は何なのか、なぜ学校教育で楽器を用いた音楽学習をするのかという自分の経験から生まれた素朴な疑問がありました。そこで、2度目の修士課程及び博士課程では日本の学校音楽教育の器楽指導、特にリコーダー指導の変遷について研究しました。現在ではこの経験をもとに、主に学校教育における器楽活動に焦点を当て、歴史的な研究とともに実践的研究も行っています。



愛用のフルートとリコーダー

2. 大学教員に進むことになったきっかけについて

歴史的な研究だけでなく、大学院での研究成果を生かしながら、もっと現在の学校現場に関わり学校音楽教育に関する実践的な研究も深めたいと思ったことがきっかけの一つです。また、現在音楽に向き合っている大学生に対して、一緒に楽器を演奏したり教科教育に関する講義・演習を行ったりすることを通して、音楽の奥深さを感じながら人間と音楽の関係性に興味をもってもらいたいと思ったからです。



実は奥が深い鍵盤ハーモニカ

3. 研究成果の教育への還元について

現在は本大学で音楽科教育の内容に関する授業をする他に、福岡県内小中学校の先生方と音楽科全般に関する実践的研究を進めています。子供たちの深く楽しい音楽学習を支援するには?表現の技能を高めるための学習とは?など真剣に意見を交わしながら、時には美味しいお菓子を食べながら、教材研究や検証授業を行っています。また、本大学院生と一緒に小学校に出向いて演奏会を開き、フルートを演奏したり歌ったりして子供たちに生の音楽を届けています。

4. こだわりの物・考え・モットーについて

五感を刺激する経験をたくさん持ちたいと思っています。フルートやピアノを演奏したりコンサートで生の音楽を聴いたりすることはもちろん、絵画を見たり、焼物や布などを触ったり色を楽しんだり、旬の食べ物や外国・日本の各地域の特産品を味わったりしています。ベルギーの漫画家エルジェによる『タンタンの冒険』シリーズは子供の頃から大好きで、研究室と自宅にフィギュアやポストカードを飾って、疲れた時に眺めて癒されています。



憧れだったベルギーのエルジェ美術館前で

5. 福岡教育大学で学ぶ学生に一言

学割を活用してコンサートや美術展などに通って、五感を働かせる経験をたくさん重ねてほしいです。それらの経験がすぐに役に立つというわけではないかもしれませんが、言葉だけでは表現しにくい感情を揺さぶるような機会をもつことは、自分自身を知ることだけでなく様々な世界に生きる人や文化に向き合い理解することの土台をつくっていくものに繋がっていると思います。ぜひ自分の感覚を研ぎ澄ませて、音や色や文化との新しい出会いをつくってください。

学生から見た先生の魅力について

山中先生は一見クールな印象があったのですが、授業を受けたり、先生とお話をしたりすると、ちょっとおちゃめところもあり、また、授業以外でも親身になってアドバイスをくださる本当に親しみやすい先生です。

たかだ さとこ
高田 敏子さん
中等教育教員養成課程 音楽専攻4年



福教大 NEWS 1 ▶ オープンキャンパス2017を開催

福岡教育大学では、7月22日(土)にオープンキャンパスを開催しました。今年も天候に恵まれ、朝早くからたくさん的高校生や保護者の方など、約3,100人ものお来場者をお迎えしました。

オープンキャンパスでは、大学説明会のほかに各専攻等の紹介や体験授業、在学生による個別相談など、多彩なイベントを学内各所で開催しました。

大学説明会では、参加された高校生や保護者の方々が、櫻井学長による講話などに熱心に耳を傾けていました。



大学説明会の様子



体験授業等では、高校生や保護者の方々に大学での学びを体験・見学していただきました。また、在学生による相談コーナーでは、談笑を交えつつ和やかな雰囲気の中、高校生からの質問に在学生が答えました。



体験授業



体験授業



在学生による相談コーナー

図書館も開放して、図書館ツアーや文藝部による本の紹介などを行いました。また、サークル活動紹介では、グラウンドや体育館での練習のほか、中庭等で歌やダンスを披露するサークルもあり、大いに盛り上がりました。



謎解きゲームの模様(図書館)



練習風景(サークル活動)



ダンス披露(サークル活動)

オープンキャンパスのアンケートにご協力いただいた方に、本学オリジナルグッズを配布しました。これを機に本学により親しみを抱いていただけましたら幸いです。

みなさまからお寄せいただいた意見を踏まえ、来年度以降も、さらに進化した福教大オープンキャンパスにできるよう、スタッフ一同尽力いたします。

本学オリジナルグッズ▶



インターンシップ・ボランティア研修2017を実施

この夏、学生13名(1年生5名、2年生8名)、職員1名(職員研修)の計14名が、8/22~9/3の13日間、カンボジアでのインターンシップ・ボランティア研修に参加しました。

参加者は2班に分かれ、交互に、孤児院でのボランティア、CMC(一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン: <http://cmc-net.jp/>)でのインターンシップ、CMCが建設した学校等での交流・プレゼン、教員・教育関係者・地雷被害者等へのインタビュー、JICA(青年海外協力隊)で活躍中の先輩訪問等の活動を行いました。

本学では、「グローバル社会に対応する児童生徒」を育成できる「グローバルな視野を持った教育者」の養成、グローバル化する教育現場に対応した英語教育推進を担う教育者の養成のための取り組みの一環として、毎年海外への短期研修を実施しています。

研修報告書からの抜粋

しげ なぎさ

特別支援教育教員養成課程1年 **重 汀**

一番印象に残っているのは地雷被害者の方へのインタビューです。(中略) どんどん話を進めて行くうちに、その人がどう乗り越えてきたのか、これからの将来をどうしたいのか、「地雷を踏んでから」のことを考えるようになっていきました。日本人は障害面のみを見て、差別をしたり、蔑んだり、関わろうとしないことが多いと思います。今回のインタビューをとおして、私はもっと特別支援教育を学びたいと思いました。障害のある子ども達の『これから』を考えることができる教師になりたいです。

まつ お な こ

初等教育教員養成課程2年 **松尾 菜子**

今回の研修は、私にとってかなり貴重な経験だった。不安も多くあり、研修中の毎日とても大変だったけど、私の中で様々な変化が実感できた。特に、感じたのは、「もっと英語の勉強がしたい」ということだ。(中略) 自分の英語力の無さのせいで、せっかく話をしに来てくれたのに十分なディスカッションができなかったと思い、とても申し訳ない気持ちでいっぱいになった。(中略) また、今回の研修でいろんな人と関わり、たくさん話を聞いて、海外の人の日本人との考え方の違いがとても面白いと感じ、もっと知りたいと思った。更に、単純に、英語を使うことがとても楽しかった。(中略) 今回の研修ではたくさんのことを学んだ。二週間という長いようでとても短い期間だったが、本当に行けて良かったと思っているし、他の人にもぜひ行ってみたいと思った。今後のことを考えるいい機会にもなったし、これからの自分の価値観なども変わっていきそうだ。これからは、また、新しい目標に向かって頑張っていきたい。

ありどめ ゆりか

幼児教育選修2年 **有留 百合香**

今、「君に世界を変えられるか?」という質問をされたら、私は自信をもって「できます」と答えます。それは、研修を通して出会った一人一人が世界を変えようとしていたからです。ある一人は英語教育で、ある一人は教育を受けたいという気持ちで、ある一人は子ども達への愛で、ある一人は地雷被害者への偏見をなくしたいという思いで。ひとりひとりが、世界を変えるための素敵な武器を持っていました。(中略) 私はカンボジアで出会った人々から、とても素敵な武器で影響を与えてもらいました。だから今度は私が、今勉強している教育、特に幼児教育という武器を使って世界を変えたいと思っています。



孤児院の子ども達と



現地の若者とディスカッション



小学校訪問



小学校校庭にて



地雷被害者インタビュー

福教大 NEWS 3 ▶▶ JICAと学生ボランティア派遣に係る覚書を締結

福岡教育大学と独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）は、8月29日（火）、JICAボランティア事業に関する覚書を締結しました。この連携により、2020年までの3年間にわたり、毎年、本学の学生をタンザニアに約1カ月、青年海外協力隊員として派遣する予定です。

派遣は春休みに行われ、毎年約10名がタンザニア各地で野球技能やスポーツマンシップの向上に関する指導を行い、現地青少年の健全な育成に寄与することが期待されています。また、本連携は、日本政府が推進するスポーツ貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー」*にも資するものです。一方、参加学生にとっては、グローバル人材として、今後日本のみならず世界を舞台に教育分野等で活躍する契機となることでしょう。

派遣対象は20才以上の野球経験がある学生で、毎年学内説明会后に募集が開始されます。なお、今年度派遣（2018年2、3月派遣）分は既に締切済です。帰国後は報告会も予定しています。



櫻井学長と植村史香JICA九州国際センター所長

*「2020年までに、100を越す国々で、1000万人の人々にスポーツの喜びを届ける」プログラムで、安倍総理がオリンピック・パラリンピック東京招致プレゼンテーションにて表明した方針。

福教大 NEWS 4 ▶▶ 第12回宗像地区教育関係者合同研修会を開催

8月10日（木）に、本学アカデミックホールにて「第12回宗像地区教育関係者合同研修会」を開催しました。

「これからの新しい学校教育を担う教員の資質向上について」を全体テーマとし、宗像市・福津市教育委員会および学校関係者、本学関係者を合わせて約170名の参加がありました。

開会行事では、櫻井学長から「教員に求められる資質・能力とはどのようなものか。また、教員の生涯にわたって高めていくための指標をどのように設定するのか。さらには、教員のキャリア設計のモデル開発など教育現場における人材育成に係る具体的な課題はどのようなものなのか考えていきたい」との挨拶がありました。

第一部では、「教員の育成に関する事例報告」と題して、宗像区小学校教頭会・中学校教頭会各1校が、現場における事例報告を行いました。若手教員の育成やその育成をする側の中堅教員の育成等について実際に行っている取組を紹介しました。教員の年齢別構成や実際の若手教員の声を紹介する等、現場ならではの課題を参加者が共有することができました。

第二部では、「『校長及び教員としての資質の向上に関する指標』に基づく人材育成－九州地区教員育成指標研究協議会による議論の過程から－」と題して、本学教育総合研究所の礒部年晃准教授による説明がありました。教員のキャリアステージに応じて求められる資質やその向上に向けて必要な取組等について本学が策定したガイドブックに基づいて説明を行うとともに、第一部で発表された事例が、どのような点で同指標に基づく人材育成となっているのか解説がありました。



礒部准教授による解説



全体の様子

なぎなた部

私たち『なぎなた部』は部員数7名で日々の稽古に励んでいます。稽古は週に1回、第二武道場で行っています。また、剣道部と合同で異種稽古も行っています。

なぎなたは、古来より女性の武術として行われてきた武道です。現在は、競技として全国で行われている武道であり、国民体育大会の競技としても行われています。また、今年、なぎなたを題材にした漫画が実写映画化されるということがあります。なぎなたの知名度は徐々にあがっています。

本学の『なぎなた部』は、40数年前に創部された歴史ある部です。創部当時から、部員たちは日々の稽古に真剣に取り組み、全日本学生なぎなた選手権大会においては、団体戦や演技競技で優勝という素晴らしい成績を残してきました。10年ほど前に部員数が減少し、休部となっていました。昨年部員を集め復部いたしました。「日々の稽古が毎日の行動に出る」という先生の教えを常に心に留め、日々、真剣に稽古に取り組んでいます。凛とした部員の姿がなぎなた部の誇りです。

『なぎなた部』は現在、部員を募集しております。初心者大歓迎です。必要な道具はすべて武道場にありますので、気軽に武道場に遊びに来てください。



初等教育教員養成課程 2年 森田 眞生

海の療育キャンプ

私たち『海の療育キャンプ』は、夏に行う2泊3日のキャンプで、主に肢体不自由のある福岡県内の子どもたちと共に時間を過ごし、子どもたちの成長を手助けするボランティアサークルです。

『海の療育キャンプ』には、現在63名が所属しており、特別支援教育教員養成課程の学生だけでなく、初等・中等教育教員養成課程の学生も所属しています。毎年、キャンプに参加する子どもの人数には変動がありますが、約50名が参加しています。

キャンプ当日は、基本的に、子ども1人に対し、学生1人が担当となり、たくさん目で子どもを見ていきます。さらに、学生だけで障害のある子どもと過ごすことは不安なため、福岡県で教職に就いている先生方にご協力いただいています。

キャンプで子どもたちと楽しく過ごすため、当日までに様々な準備を行います。その際、全員で子どもの障害について学習し、試行錯誤を重ね、どのような子どもでも楽しめるレクリエーションを作り上げます。準備に時間をかける分、当日、子どもたちの嬉しそうな姿を見ると、胸がいっぱいになります。

『海の療育キャンプ』は、周囲の方々のご協力があり、成り立っているため、日々感謝の気持ちを忘れずに活動しています。子どもたちと共に幸せな時間を過ごしたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひ声をかけてください。



特別支援教育教員養成課程 初等部 3年 有馬 碧衣

研究 連携

学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載第18回

平成28年度 教育総合研究所 研究プロジェクト 「総合的な教師力向上のための調査研究事業 ～教員育成指標等の策定のためのモデル事業～」

研究代表：教育総合研究所 所長 清水 紀宏

教育総合研究所について

本学では、「教育総合研究所」(所長:清水紀宏副学長)を設置し、教員養成や現職教員の研修についての研究プロジェクトを実施しています。平成28年度には、11の研究プロジェクトを実施しました。その中から、文部科学省より受託した調査研究事業「総合的な教師力向上のための調査研究事業～教員育成指標等の策定のためのモデル事業～」について紹介します。

教員育成指標等の策定のためのモデル事業の概要

教育公務員特例法等の一部を改正する法律が平成28年度末に施行されました。この改正法によって、教員の採用や研修を担う教育委員会と教員を養成する大学とが協働して、約40年間にわたる教員のキャリアに応じて身につけるべき能力の目安としての「指標」を策定することが新たに求められています。

こうした動向に対応して各教育委員会が「指標」を策定する際の基礎として役立てられるような「指標のモデル」を、本研究の磯部年晃准教授を中心とした研究チームが研究開発しました。

まず、これまでの教育委員会の取り組み等の調査研究などを通して、学び続ける教員に必須となる資質・能力を整理しました(図1)。

さらに、教員のキャリアステージとして「養成期」「基礎期」「深化期」「充実期」「発展期」を設定しました(図2)。

これらを踏まえ、教員の各キャリアステージで求められる資質・能力を具体的に位置づけ、指標のモデルを作成しました。

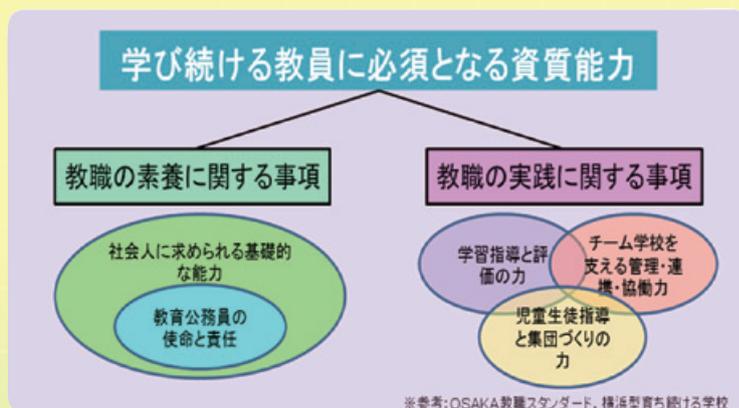


図1 教員に必須となる資質・能力

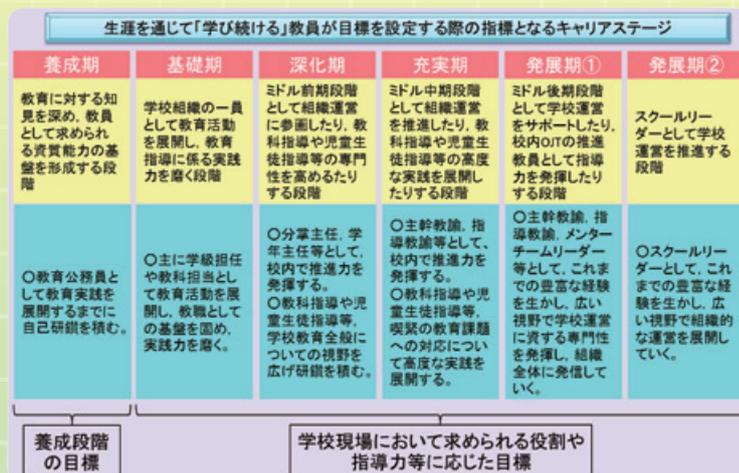


図2 教員のキャリアステージ

「九州地区教員育成指標研究協議会」の立ち上げによる研究推進

本調査研究では、「九州地区教員育成指標研究協議会」(図3)を立ち上げ、研究を推進してきました。県内の教員養成に関わる国立、私立大学の研究者、九州地区全8県の教育委員会関係者らが一堂に会した研究協議会を3回開催し、九州地区各県の現状や課題をもとに、協議・情報交換を行い、「指標のモデル」を策定しました。



協議会の様子

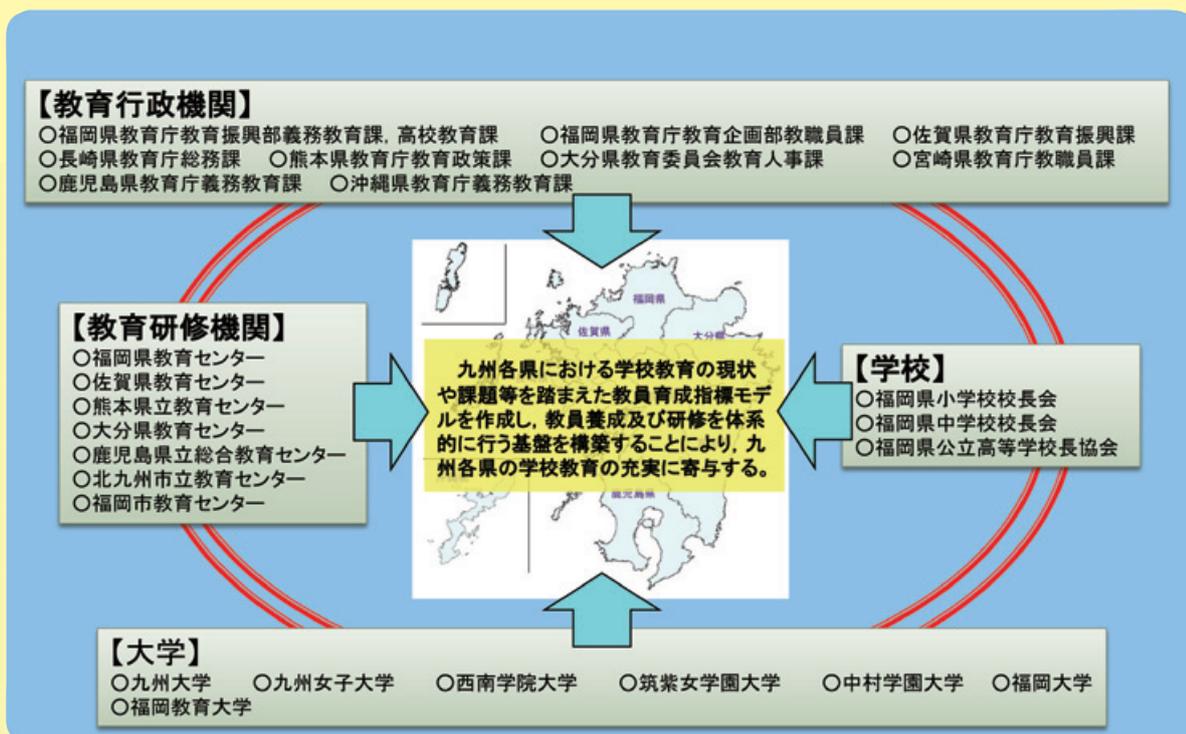


図3 九州地区教員育成指標研究協議会の構想図

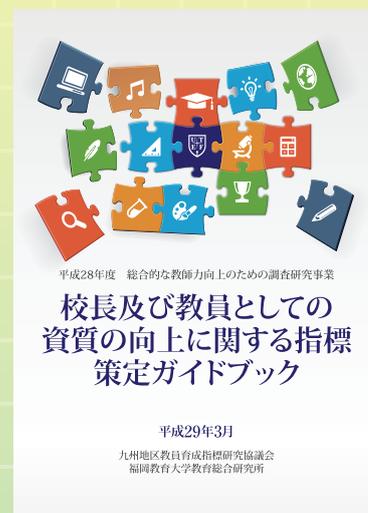
研究成果の発信・還元

教員の養成及び研修に係る政策の動向、各教育委員会が指標を策定する際の留意点ならびに「指標モデル」をコンパクトにまとめた「校長及び教員としての資質の向上に関する指標策定ガイドブック」を作成し、全国の教育委員会等に送付しました。九州各県・政令指定都市の教育委員会をはじめとして、お役立て頂いているとのうれしい報告を受けています。

このガイドブックは、教育総合研究所のホームページに掲載しています(「福岡教育大学教育総合研究所」で検索すると容易に閲覧・入手できます)。

今後の展開

指標が策定されると、次に「指標に基づく教員研修の見直し」が課題となります。この課題の解決に資するべく本研究所では、平成29年度も文部科学省の委託を受け、九州の国立大学の研究者にも新たに加わっていただいた「九州地区教員養成・研修研究協議会」を新たに立ち上げ、研究を継続しています。



作成したガイドブック



全校朝会の進行



算数科の授業風景



学力向上の取組を協議



学力調査をもとに研修

楽しかった大学生活

大学で出会った人と再会するとき、大学で教えていただいた先生のことや思い出の場面を語り合うとき、今の年齢や立場を忘れて、楽しかった大学時代にタイムスリップした感覚になります。それと同時に、教育実習で感じた授業づくりの難しさと子どもたちと関わる喜び、そして、この仕事に就こうと決意したことを思い出します。

人に学ぶ

大学時代には、先輩、同輩、後輩からたくさんのことを学びました。今でも大学時代に出会った人々と続くつながりもあります。学校で働いていても、様々な先生方の姿に学ぶことがたくさんあります。一人一人の日記から児童理解を行う姿。始業式前日、子どもがこれから一年間使う靴箱をぞうきんできれいに拭く姿。子どもの考えを引き出すための発問について放課後の教室で熱心に話し合う姿。ゴール像を明確にし、組織的にそのゴールを追い続ける姿。そんな素晴らしい先生方に囲まれて今わたしは毎日を送っています。

授業づくりって楽しい

大学を卒業して、17年が経とうとしています。この17年間を通して、今一番感じることは、授業づくりは楽しいものだということです。子どもたちのことを考え、教材のことを考え、指導の仕方を考える。日々の授業をしていく中で、うまくいかないことももちろんたくさんあります。しかし、「わかる」「できる」を実感した子どもの姿に触れたとき、とてもやりがいを感じます。

学生のみなさんへ

いろんな場所に出かけてください。いろいろな人に出会ってください。

いろいろな経験をしてください。必ず未来の自分にとって財産になります。

そして、ぜひ一緒に働きましょう。どこかであなたに出会えるのを楽しみにしています。



志免町立志免東小学校
主幹教諭 藤木 悠介さん
平成13年3月
小学校教員養成課程
数学専修卒業



外国語の授業の様子①



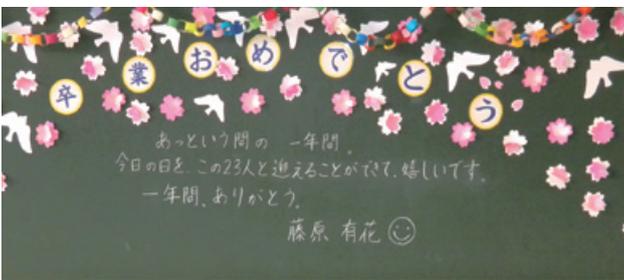
外国語の授業の様子②



算数科の授業の様子



卒業式後に子ども一人一人とお別れする様子



卒業式当日のクラスの子へのメッセージ

人ひとりが輝けるクラスをつくり、一人でも多くの子が「このクラスでよかった」と一年間が終わったときに思えるクラスをつくりたいと思います。

日々の笑顔からパワーをもらい日々子どもたちから学び、子どもと共に教師として成長できる。それが、教師の魅力です。

大学生のみなさんへ

大学生の一番の魅力は、「時間」があることです。4年間、自分のやりたいことにたくさん挑戦をしてください。私の大学時代は、いろいろなボランティアやアルバイトを経験したり、一人で海外に出かけたり、友達と行きたいところを見つけてはお金をためて旅行をしたり、「したいな」と思うことを実現させてきた4年間でした。大学生の間が一番好きな事をできる時間があります。今、大学生の間にしかできないことにどんどん挑戦してほしいと思います。思いっきり楽しい大学生活を過ごしてください。



春日市立春日原小学校
ふじわら ゆか
教諭 藤原 有花さん
平成26年3月
初等教育教員養成課程
音楽選修卒業

「小学校の先生」という夢を叶えて4年が過ぎようとしています。同じ夢をもつ仲間と共に勉学に励み、先生や先輩方から現場の様子や経験をたくさん知れる福岡教育大学で過ごしたからこそ、今の教師生活があると感じています。

教師になって・・・

小学校の先生という夢を叶えた今、「教師になってよかったな。」と思っています。子どものために一生懸命考え、子どもと一緒に居心地のよいクラスになるように努力をし、子どもの成長を喜ぶ・・・そんな楽しい日々を過ごしています。「もっと子どもが分かるような授業ができないかな。」「もっと子どもに気持ちを伝えるためにはどうしたらいいかな。」と悩むこともたくさんあります。しかし、子どもたちの「分かった!!」「できた!!」という笑顔を見ると、自分にできることをもっとしていきたいなと思います。私にとっては、数十人の子どもたちですが、子どもにとって私は一人しかいない担任。だからこそ、子どもたち一

WEB絵本「出光佐三のふるさと ～むなかたから世界へ～」が公開されました。

公益社団法人宗像青年会議所と本学日本画研究室との連携により完成したWEB絵本「出光佐三のふるさと～むなかたから世界へ～」が、8月30日(水)より、宗像青年会議所公式HPで公開されています。

出光興産株式会社からご提供いただいた資料を基に、学生9名(3年生2名、4年生5名、大学院1年生2名)が物語の構成について青年会議所の担当者と検討を重ね、「出光佐三の誕生」、「出光商会の設立」、「教育大学を宗像に」など15項目で構成し、学生と担当教員がそれぞれの項目についてイメージを膨らませて原画を描きました。

このWEB公開に合わせ、原画展が「出光佐三展示室」にて9月30日(土)まで開催されました。

WEB絵本は下記URLより閲覧できますので、是非ご覧ください。

宗像青年会議所HP: <http://www.munakatajcc.com/>



表紙モデルの福教大生☆

今回の表紙は、特集1にて対談いただいた、細山田捺見さん、田口由希子さんにご登場いただきました。特集の中で、学長と本学の魅力について語られています。

今回の意見交換を終えて、細山田さんから「私は、福岡教育大学での4年間、教育実習やボランティア活動等を通して、人と関わることの難しさと共に、思いが伝わったり通じ合ったときの嬉しさやあたたかさを学びました。そして何より、喜びも悩みも、自分のことのように分かち合って受け入れてくれる仲間ができました。かけがえのない経験と出逢いを得ることができた福岡教育大学に、とても感謝しています。ここでの学びを糧に、4月から新しい場所で頑張りたいと思います。」、田口さんから「この度は、学長と対談させていただく貴重な機会をいただきました。ボランティア活動はとても楽しく、実践的な学びをすることができます。子どもたちのキラキラとした明るい笑顔にであえると、やりがいを感じます。これからも、様々なボランティア活動に積極的に参加していきたいです。」とコメントをいただきました。



福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

同窓会 城山会

平成29年度 新卒・若手会員情報交換会報告

10月28日(土)第5回新卒・若手会員情報交換会を大学との共催で開催いたしました。

大学より、櫻井学長、教職教育院の寺尾院長、生田准教授のご出席をいただきました。同窓会からは新卒・若手会員、本部・支会役員、組織部、青年部幹事(120名)及び学生(約30名)、約150名が集いました。

午前の部は、北九州市、北筑後地区、京築地区の新卒・若手教員による報告、谷副会長の指導助言後、生田先生指導の小グループ交流会が行われました。午後からは共通講義棟で地区別懇談会(昼食)終了後、青年部が中心となったレクリエーション(ソフトバレー)で先輩と学生との交流が図られ、有意義な会となりました。



新卒・若手会員情報交換会

福岡教育大学同窓会城山会 第17回新年の会のご案内

日時:平成30年2月4日(日)11:00~

場所:博多サンヒルズホテル 住所/福岡市博多区吉塚本町13-55
電話/092-631-3331

会費:6,000円

お申し込みは各支会よりお願いいたします。

福岡教育大学同窓会城山会事務局
TEL・FAX 0940-33-2211
e-mail:jouyamakai@able.ocn.co.jp

健康科学センター

MESSAGE No.114 2017秋号

今回の内容は、「天災は忘れた頃にやってくる」、「ストレスをコントロールする力を育てよう」、「私のリフレッシュ対策(岬巡り)」、「あなたはどんな「仮面」をつけていますか?~ペルソナについて~」、「アンガーマネジメント(怒りのコントロール)~すぐできる怒りの鎮め方の巻~」、「自分の気持ち、相手の気持ちを大切に~DVについて~」、「ストレッチ」、「ハンドケア」など盛りだくさんです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP
<http://www1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

後援会

「後援会だより」第75号発行のお知らせ

「後援会だより」第75号を7月に発行し、保護者の皆様へ送付いたしました。お手元に届きましたでしょうか。第75号は会長、学長、理事のお話や食育、教育実習について、また社会に出て活躍している卒業生の原稿、後援会の事業、予算、決算についてなど載せています。皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。



福岡教育大学後援会事務局
TEL・FAX: 0940-33-8070
e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp

入試情報(一般入試情報)

【前期日程】 出願期間:平成30年 1月22日(月)~1月31日(水)
試験期日:平成30年 2月25日(日)~2月26日(月)
合格発表:平成30年 3月 6日(火)10時
※ホームページ掲載は10時30分頃(予定)

【後期日程】 出願期間:平成30年 1月22日(月)~1月31日(水)
試験期日:平成30年 3月12日(月)~3月13日(火)
合格発表:平成30年 3月21日(祝・水)15時
※ホームページ掲載は15時30分頃(予定)

募集要項は12月上旬からの配布予定です。

請求方法は下記よりご確認ください。

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/admissions/relevance/contact/list_entrance

教員志望の皆様への入学をお待ちしております。



(上記募集要項のサイトへリンクします)



【問い合わせ先】
入試課 TEL: 0940-35-1235 FAX: 0940-34-1313
E-mail: nyushi@fukuoka-edu.ac.jp

Joyama 通信 vol. 40



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第40号

2017年11月30日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■特集1では、4年間一貫したきめ細かな教育で学生の皆さまを応援する大学側としての学長からと、現在在学している2人の学生さんから本学の魅力について語っていただきました。教育実習やボランティア活動を通して成長している在学生の声もお届けすることで、本学への入学を考えられている皆さまにも九州の教員養成拠点大学である本学の魅力をお伝えすることができたのではないのでしょうか。

特集2では、5名の先生方に、大学教員に進むことになったきっかけやモチベーションなど、普段知ることができない項目についてインタビューしました。この特集を機会に魅力ある本学の先生方について、多くの皆さまに知っていただければ幸いです。

(広報編集部)

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。